

西村 朗 弦楽四重奏曲 第6番〈朱雀〉(2017)

解説:西村 朗

- ◎この作品は、尊敬と感謝を込めてアルディッティ弦楽四重奏団に献じられている。
前作「第5番〈シェーシャ〉」の作曲から4年を経た2017年の1月から4月にかけて東京において作曲。
- ◎この四重奏曲は、東洋的な「夏」の観念を主題としており、古代中国における夏の象徴としての神鳥「朱雀」^{すざく}からインスピレーションを得て作曲されている。
中国の伝説上の「朱雀」は、四神(the Four Symbols)のひとつであり、南方を守護する神獣である。この作曲では、「朱雀」と関連する様々なイメージのうち、「鬼(Ghost)」「星(Stars)」「火(Fire)」「翼(Wings)」という4つのイメージが、曲想や構成に強い影響を与えている。
- ◎また、この曲には〈朱雀の飛翔の音列主題〉が存在し、その原形や変形、断片群が曲の流れの中で見え隠れする。
その音列の原形は、D-B-E-H-F-Ges-C-A-As-G-Cis-Dis である。
- ◎曲は次の2つの楽章から成る。
 - I. 鬼(Ghost)と星(Stars)
 - II. 火(Fire)と翼(Wings)これら2つの楽章は対立的ないし個別的な性格ではなく、「朱雀」の複合重層的で動的なイメージ像一体の言わばふたつの鏡像である。
ふたつの鏡像を映ずるふたつの鏡面はそれぞれに歪んでおり、そのためにふたつの鏡像の共通性も歪んでいる。そのような複楽章構成となった。
- ◎「朱雀」のイメージを通して「夏」を主題としたのは、夏に象徴される生命の盛りの輝きと夜の深い闇の神秘性、超自然的なエネルギーの見えざる高潮などへの賛美の念がつのったためである。

※CD『シェーシャ』[カメラータ・トウキョウ CMCD-28364]のブックレットより転載 出版:全音楽譜出版社